



広報

みんなでつくる、未来へつなぐ。あふれる笑顔、びらとり。

No.732

2024.

3

びらとり



2月24日
義経神社 初午祭

「木育」の推進、町内の公共施設などの木質化による木材利用の促進を継続的に進めます。

林業現場での人材確保は、令和5年度に創設した林業担い手対策事業の取り組みの成果として、北海道立北の森づくり専門学院から令和6年度2名が、町内での就職を希望しています。

さらに、担い手不足や作業従事者の高齢化が著しい林業、木材製造業について、人材確保の取り組みを強化していきます。

また、木質バイオマスの活用を進めるため、地域内での林地残材や未利用材の活用などによる原料供給体制の具体的検討を進め、木質バイオマスの燃料での再生可能エネルギーの創出による地域内経済循環型システムのさらなる構築を目指します。



木質バイオマスセンター

人口減少、時代の変化や消費者の価値観の変化などから、平取町でも小売店や飲食店は減少の一途を辿っています。以前のような商店経営が難しい環境ですが、生業として成り立つ、消費者のニーズに呼応できる職種や商法なども検証し、後継者対策、空き店舗の活用や外部からの人材の確保など、商工会と連携し積極的に進めていきます。コロナ禍の収束により復活するイベントの開催にも支援をします。

また、人口減少の抑制や雇用の確保という見地から、企業誘致への情報収集なども進めます。

観光を契機とする交流型のまちづくりを進めることで、観光が他の産業を活性化し、雇用の創出やアイヌ文化の振興、人口の定住につながることを期待し、各種事業を進めます。

町内へ人を呼び込む手段として平取型ツーリズムなどの提供のため、観光協会やアイヌ文化振興公社など関係団体と連携し、大胆な発想とアクションで、観光分野の各種事業等の活性化と観光資源の新たな掘り起こしを推進します。

観光資源であるすずらん群生地、二風谷コタン、びらとり温泉ゆから、義経神社、映画ロケ地などへの観光客の積極的な誘致と、キャン

プ場を有する二風谷ファミリランドや二セウエコラ入込客、観光消費額増のため取り組みを強化します。

また、「日高山脈襟裳国定公園」の国立公園化が年内に確定となり、日高山脈の秀峰、幌尻（ポロシリ）岳を有し、麓にアイヌ語地名や伝説などが数多く残る平取町として、国立化というブランドを活用し、来訪者や登山客の誘致を図ります。



幌尻岳

快適に暮らせるまちづくり

町民が暮らすうえで基本となるライフライン関連施設を適正かつ良好な状況で維持管理し、住民サービスを提供することは、自治体の大きな責務です。

道路、橋梁、河川、水道、生

《生活基盤》

多様化、変化する住民ニーズに対応できる役場機能の構築と職員の育成に努めます。そのため研修の強化や他団体との人事交流などを積極的に進め、職員採用の手法も再考し、より優れた人材を確保する取り組みを検討します。

町内の医療や介護、福祉関係施設や保育園等における人材確保が厳しい状況であることを踏まえ、待遇改善等の支援を制度化し、必要な人材の確保に努めます。

また、役場庁舎や消防庁舎、その他改築を検討しなければならぬ施設等について、利便性や経済性なども考慮し、本町市街地エリアの公共施設の効率的な整備を進めるため、それぞれの改築の整備方針とスケジュールなどを検討していきます。

《協働》

平取町自治基本条例の主旨に則し、町民への情報共有と住民参加により町政を運営していきます。「びらとり協働のまちづくり事業」も継続し、今後も町民の力とアイデアを結集し、将来のまちづくりを検討できる仕組みを作ります。

人口減少や高齢化により、地域の自治会、町内会活動が維持できない状況が懸念され、各地域での組織の在り方や再編なども視野に、コミュニティの維持継続に向け、自治振興会や関係団体と議論協議し、方向性や具体的方策を採っていきます。

農業をはじめ産業の現場、福祉、医療など各分野における人材の確保は深刻な状況にあり、外国人を含めた人材の確保の取り組みを関係機関と連携し進めていきます。

《環境・景観・エネルギー》

国が掲げる2050年ゼロカーボンへの指針を受け、令和4年12月に「平取町ゼロカーボンシティ」を宣言し、「平取町ゼロカーボン実行計画」を令和5年度に策定しました。今後は、計画に沿って木質をはじめ、可能性のあるバイオマスの活用に向けて、域内経済の循環とエネルギー

活排水施設などのインフラは、老朽化が顕著になっており、これらの整備は、緊急度、優先度を十分考慮しながら、長寿命化計画等に基づき、事業コストの低減になる工法なども検討し進めます。

国や北海道が管理する道路、河川などの整備は、国道237号振内地区の拡幅や道道平取静内線の貫気別市街地区間の整備、道道宿志別振内停車場線の改良、河川の河道掘削や樋門整備など、町内に多くの整備箇所があることから、関係機関に早期整備を強く要請します。

高齢者や障がい者のための移動手段の確保は、現在の路線バス、デマンドバス、福祉バスなどの体系の検証を進め、2024年問題等での運転士等人材確保が厳しくなる現状などを踏まえ、地域公共交通計画に沿った、より効率的な地域内での交通手段の在り方を関係機関と検討していきます。

《防災・消防・救急》

近年の地球規模での気候変動を要因とする大雨や千島・日本海溝で想定される大規模地震等の自然災害に対応できる防災体制の強化が大きな課題です。これらは「地域防災計画」に基づき、関係機関との綿密な連携により、特に大雨で発生する可能性が高い大雨洪水には、沙流川平取地区水害タイムラインに則った行動を効果的に実行し、そのための各



救助訓練

の防災訓練も積極的に実施します。合わせて、要援護者支援台帳システムや地域で見守りマップを活用し、災害時に迅速に対応していきます。

消防はより資機材の充実強化に努め、救急体制は各関係機関との連携を強化し、救急隊員のスキルアップを図り、救命率の向上に努めていきます。令和6年は、平取町防公設100周年となり、記念事業を実施します。

平取ダム建設工事、関連付帯工事が令和4年度で完成し、これにより沙流川流域の治水対策はさらに強化されました。

しかし、気候変動による降雨量の増加で、洪水発生頻度は2倍になると予想され、これに伴い、沙流川でも河川整備基本方針の変更など、新たな洪水調整への取り組みが始まり、沙流川流域河川整備計画の変更も予定されています。流域自治体として河道掘削、ダム湖や事業用地内での維持管理、防災対策の強化、流域のアイヌ文化関連調査の継続等について、国への要請、意見反映を行います。

《行政運営》

現在の財政見通しでは、公債費のピークが令和8年度で、それまでは「我慢の財政運営」が予想されます。

反面、投資的経費としての公共事業や雇用の確保といった重要な側面もあり、国や道、関係機関等の制度による特定財源や良質起債の充当などを必須の条件としながら、適正規模の財源運営に努めていきます。

さらに、町民負担の公平性の確保から、町税をはじめ使料等の税外収入を含めた未収金の発生を抑えるため、積極的な対応を図ります。

ふるさと納税は、財源の確保という見地からも積極的に進め、平取町の魅力向上と新たな商品開発や販路拡大への拡充を図り、寄附金の増額を目標として取り組みを強化していきます。

《財政運営》

財政運営に関しては、中長期的な視点で常に財政状況を検証し、健全化と持続可能な財政運営に取り組みます。

令和5年度、6年度の予算編成は、人件費、公債費等の義務的経費の増加により、投資的経費への充当一般財源が不足するため、基金からの繰入額が増加し、令和6年度も5億円近い繰入れが予定され、財政の硬直化が懸念されます。

特別会計を含む令和5年度末の起債残高は97億円を超え、今後、経常経費のさら



ふるさと納税返礼品（びらとり和牛）

人口減少や少子高齢化にいかに対応し克服するかが、町政運営の大きな課題であることは間違いではありません。

しかし、この国全体の将来の人口減少の現実から、それらを前提としたまちづくりへのシフトが求められます。これらを念頭に、町民の皆様とも議論を重ね、維持可能な地域づくりのための各種施策、事業に取り組んでいく所存です。

地方自治体を取り巻く社会情勢や財政状況は、競争や物価の上昇、気候変動、コロナ禍やいつ起こるかかわからない災害などへの対応など、さらに厳しい状況が予想されます。

このような状況下での政策等の選択、施行は極めて難しいものがありますが、議会、町民の皆様と情報を共有し、様々な課題に向き合いながら、解決の手法を探り、この平取町を次の世代に引き継ぐための努力を続けていきます。

町民のまちづくりへの思いを覚醒させ、行動を触発するようなリーダーとなれるよう、持てる力を傾注し、全力で取り組んでいきたいと考えています。

さらなるご支援とお力添えを心よりお願い申し上げます。令和6年度町政執行方針」といたします。



教育長 松田 拓美

新型コロナウイルス感染症の分類が5類移行後、コロナ前の社会に戻りつつあり、学校においても感染対策を講じながら、通常の学校生活を行うことが可能となってきました。

教育委員会では、令和3年度に策定した平取町教育推進計画を基本に「子ども一人ひとりが夢と希望を持つことのできる学校教育の充実」と、「活力あるまちづくりを進めるための人材育成」に寄与するとともに、生涯学習社会の形成に努めていきます。

教育行政に臨む基本姿勢

「平取町の歴史・風土や文化を愛する心豊かな人づくりをめざして」を基本理念とし、豊かな自然と地理的条件のもと、この地に先住し自然を敬い共生してきたアイヌ

潤いと活気ある地域づくりを目指す社会教育の推進

- (1) 学校を核とした地域づくりの推進
(2) 家庭・幼児教育の充実
(3) 青少年教育の充実と健全育成
(4) 成人教育の充実
(5) 公民館活動の充実

民族や先人たちがともに築いた郷土の歴史、文化への理解を深めながら、厳しい社会を生き抜くためのスキルを身につけ、心豊かで責任感を持つ人づくりを目指します。

生きる力を育む学校教育の推進

「生きる力」を身につけるために、「知識、技能の習得」、「思考力、判断力、表現力の育成」、「学びに向かう力、人間性等」を三つの柱として子どもたちの資質・能力を育成し個性や創造性を育みます。

(1) 教育内容の充実

確かな学力の向上を目指し、全国学力・学習状況調査への参加と町独自で行う標準学力検査の調査結果の分析・検証を速やかにを行い、子どもたちの状況に応じた学習指導を行います。

芸術文化活動の活性化と創造

各種文化団体による主催事業への後援及び助成支援、団体間の連携強化を推進し指導・助言を行います。

生涯にわたりスポーツが楽しめる環境の形成

(1) 地域に根ざしたスポーツ振興の推進
(2) スポーツ指導者には、経験と理論を持つ優れた人材の確保が必要...

「主体的・対話的・深い学び」の視点を位置づけた授業改善の体制づくりを進めます。障がいのある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けて教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援の充実に努めていきます。

健やかな心身の育成

「考え、議論する道徳」を展開し、他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養っていきます。

(2) 豊かな人間性と

読書活動は、感性を育み、表現力や想像力を高め、生きる力や心をつづけること、子どもたちが自主的に読書する環境づくりに努めます。

本の魅力とともに知識・教養を高める図書館活動の充実

住民にとって魅力のある蔵書を整備し、生涯にわたる読書習慣の定着を図るため、読書推進サービスの実施及び充実に努めます。

郷土財産である文化財の保護と活用

(1) アイヌ文化の振興及び二風谷アイヌ文化博物館の充実
(2) 有形・無形文化財等の保護と活用

いじめの未然防止と早期発見・解消のため、組織的かつ迅速な対応に努めます。また、不登校や支援が必要な児童生徒・家庭への対応については、平取町で採用するスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーを有効に活用し、児童の心のケア及び教員や保護者の悩みを心理面からサポートし充実させることにも、学校と関係機関が連携した支援を進めていきます。

地域とともに歩む学校教育の推進

(1) 学校運営の強化充実
(2) アイヌ文化学習の推進

自主的・意欲的な学習活動が出来る特色ある学校づくりのため、自然環境や人材等を活かして充実を図ります。

芸術の価値や来歴、技巧などの普及に努めていきます

国指定重要有形民俗文化財「北海道二風谷及び周辺地域のアイヌ生活用具コレクション」の適切な保存管理、ユネスコ無形文化遺産に登録されている国指定無形民俗文化財のアイヌ古式舞踊を保護推進し、各種伝統行事や保存継承活動を支援し、地域の文化資源として有効な活用施策を推進します。

代表的なアイヌ伝承地であり、独特の地形と自然景観をもつ景勝地として指定された名勝ピリカノカ「幌尻岳（ポロシリ）」、「オキクルミのチャシ及びムイノカ」の保存及び普及啓発と活用を推進します。

重要文化的景観「アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観」を保護活用するため、関係機関との連携による施策を推進します。

環境の整備を進め、業務の見直しや分担を図り効率化を進めていきます。
(2) 安全・安心な教育環境の整備
すべての児童生徒が安心して教育を受けることができるよう、就学に必要な支援措置を図ります。

平取高等学校の振興発展

「びらとり義経塾」をはじめ、魅力ある高校づくりへの支援に努め、「平取高校の魅力化を図り存続させる」と連携し、教育委員会としての施策を講じていきます。



学校祭

沙流川歴史館の充実

企画展や特別展、講座等を通じて適切な資料の保存と管理を実施しながら、地域の歴史を語る貴重な財産として有効活用を努めます。

開拓財産の保存と活用

平取町開拓財産展示施設等で平取町の開拓当時の産業や生活の様子を理解できる展示に努め、学校教育や地域の郷土学習、農業体験など開拓財産の有効活用を進めます。

平取町ゼロカーボン推進計画を策定しました

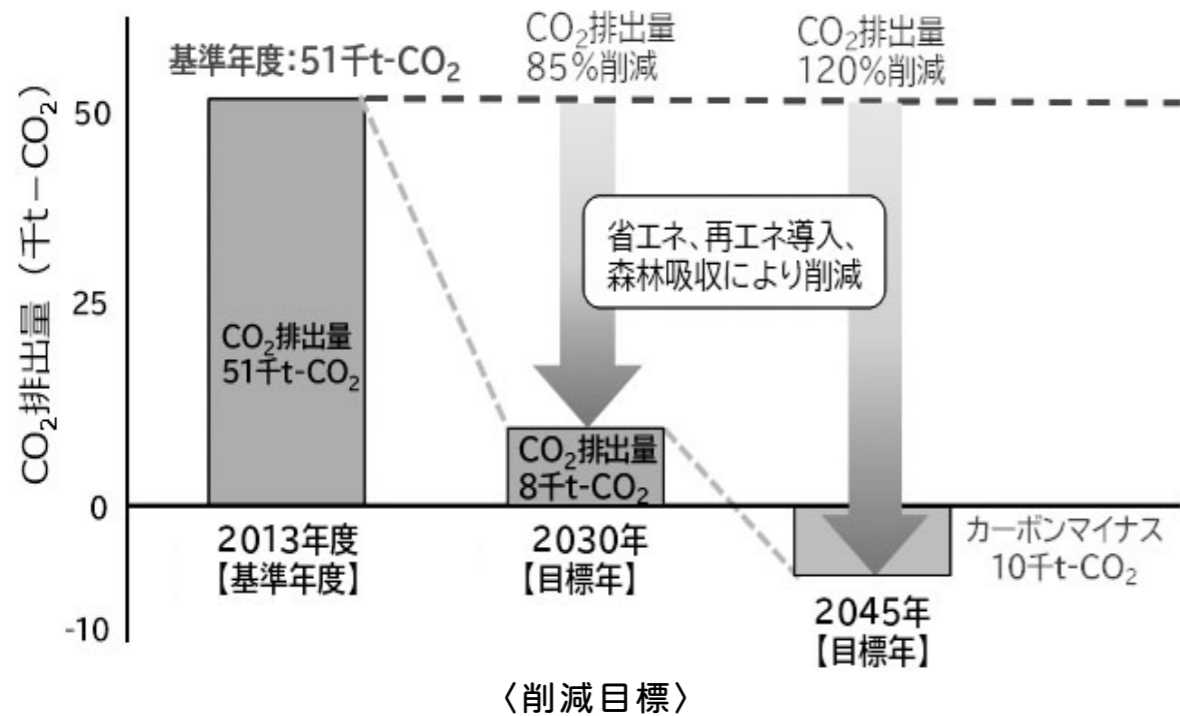
▽平取町ゼロカーボン推進計画の概要

平取町では、2022年12月15日に2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ宣言」を表明し、二酸化炭素排出量を実質ゼロにしていくための様々な地球温暖化対策に取り組むこととしています。その一環として、平取町の自然的社会的条件に応じて、温室効果ガスの排出量削減等を推進するための数値目標や施策を定めた計画「平取町ゼロカーボン推進計画」を策定しました。

平取町では、再生可能エネルギーの導入ポテンシャルが高いこと、森林面積が大きいことにより二酸化炭素の吸収量が期待できることから、この計画では国の目標の2050年より5年早い2045年を長期目標としています。

▽二酸化炭素排出量削減目標

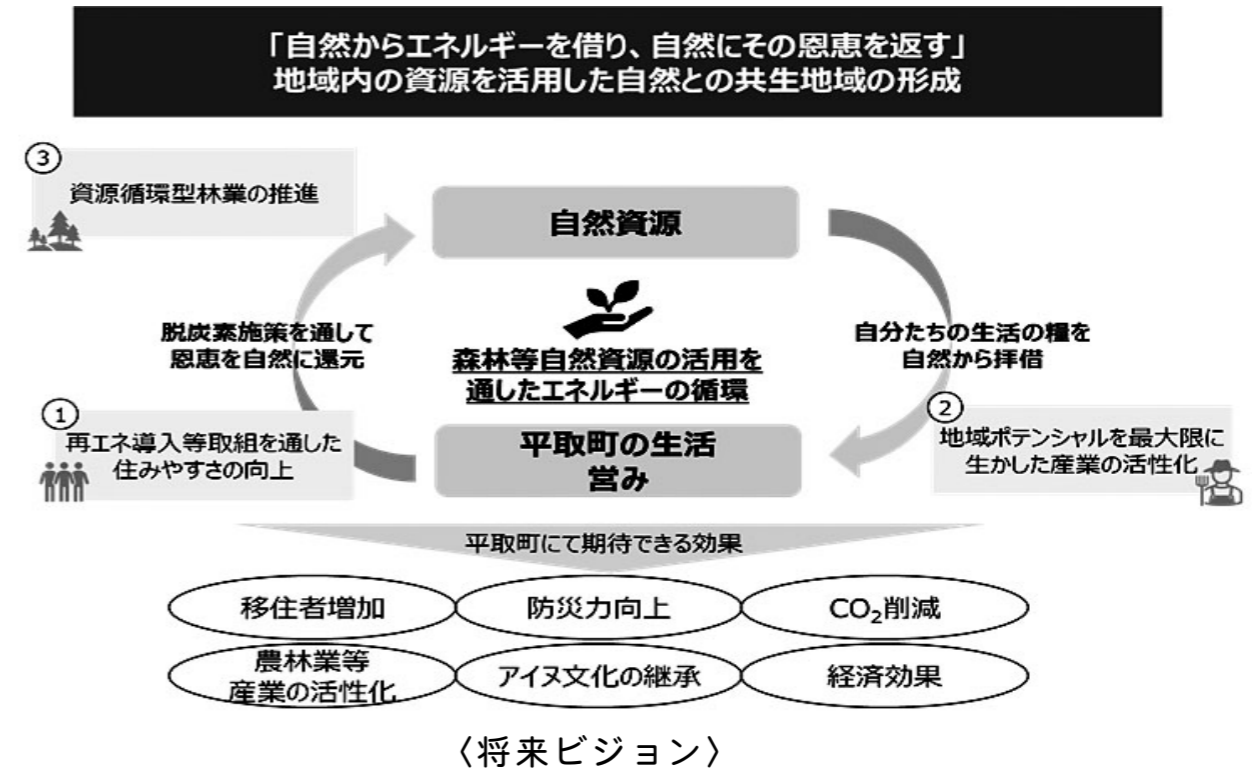
平取町における基準年度（2013年度）のCO₂排出量は51千t-CO₂ですが、再生可能エネルギーの導入、森林吸収量の活用により、2030年に85%減、2045年に120%減（2013年度比）を平取町のCO₂削減目標としました。目標達成に向けては、2030年度までに新たに7千t-CO₂、2045年までに10千t-CO₂分の削減にあたる新規の再エネ電気、再エネ熱等の導入が必要となります。



▽将来ビジョン

削減目標を達成するだけでなく、脱炭素を通じた持続可能なまちづくりに向けて将来ビジョンを設定しました。「『自然からエネルギーを借り、自然にその恩恵を返す』地域内の資源を活用した自然との共生地域の形成」をビジョンとして、①再エネ導入等取り組みを通じた住みやすさの向上、②地域ポテンシャルを最大限に生かした産業の活性化、③資源循環型林業の推進の3点をビジョンに紐づくコンセプトとして策定しました。コンセプトを実現することで町内への効果・課題解決としては「移住者増加」、「防災力向上」、「CO₂削減」、「農林業等産業の活性化」、「アイヌ文化の継承」、「経済効果」が期待されます。

また、将来ビジョンの実現に向けては、「エネルギーの地産地消」を見据えた施策を実施していきます。



▽目標達成に向けた施策

将来ビジョンの実現に向けて、3つのコンセプト、8の施策カテゴリ、17の施策を設定しました。今後、計画の達成に向けて、住民・事業者・行政が協力・連携し、各種取り組みを推進していきます。

コンセプト	施策カテゴリ	施策
① 再エネ導入等取組を通じた住みやすさの向上	A.施設や未利用地における再生可能エネルギーの活用	施設におけるバイオマスの熱電利用
		施設や未利用地への太陽光発電の導入
	B.省エネ取り組みの推進	小水力発電の導入
		公共施設ZEB化・戸建住宅ZEH化
② 地域ポテンシャルを最大限に生かした産業の活性化	C.公共交通サービスの提供	公用車・民間車のEV化
		廃棄物削減
	D.普及啓発	公共交通へのEV導入
		町民や町内事業者を対象にした環境教育の実施
③ 資源循環型林業の推進	E.農業における資源を活用した再エネ燃料の製造	地域資源のバイオマス燃料化
		農業団地における再エネ利用
	F.再エネを活用した農作物のゼロカーボンブランド高付加価値化	バイオ炭利用による土壌改良と農地炭素貯留
		G.脱炭素型への事業転換
H.自然資源の価値最大化	未利用農地の林地化	
	林地残材の活用に向けた収集システムと燃料供給体制の構築	
	森林吸収によるJクレジットの創出	
I.林産業支援	森林環境譲与税の活用	
	林業就労者支援	

〈コンセプト・施策カテゴリ・施策〉

平取町教育奨励表彰授与式



授与式（左から：佐藤 希風さん 金谷 美玖さん
海野 春空さん 山口 瑛大さん）

2月19日(月)、中央公民館において令和5年度平取町教育奨励表彰授与式が行われ、社会教育奨励1名、芸術文化奨励4名、スポーツ奨励6名が受賞し、松田教育長より表彰状及び記念品が授与されました。

※受賞者紹介（敬称略）
【社会教育奨励表彰】
 前田由光（まえだ よしみつ）
 二風谷 永きにわたり、二風谷小学校の除雪作業を実施し、冬期間において子どもたちが安心・安全に登下校できる環境の整備に大きく貢献しました。

令和5年度平取町教育奨励表彰

【芸術文化奨励表彰】
 島野未慧（しまの みえ）
 東海大学付属札幌高等学校2年 東海大学付属札幌高等学校1年
 佐藤希風（さとうの ののか）
 東海大学付属札幌高等学校1年 第68回北海道吹奏楽コンクール北海道代表に選出され、全国大会である第71回全日本吹奏楽コンクール高等学校後半の部銀賞を受賞。

【スポーツ奨励表彰】
 金谷美玖（かなや みく）
 海野春空（うんの はる）
 駒澤大学附属 苫小牧高等学校1年
 第51回マーチングバンド全国大会北海道代表選考会金賞。北海道代表に選出され、全国大会である第51回マーチングバンド全国大会高等学校の部銅賞を受賞。

山口瑛大（やまぐち えいた）
 平取中学校2年
 第19回日台会長盃国際野球大会第3位。

地域の課題とニーズに応える人材育成と地域貢献へ 立命館アジア太平洋大学、北翔大学と平取町が連携協定



北翔大学

立命館アジア太平洋大学



大地連携ワークショップ冬inびらとり

平取町は2月9日(金)に立命館アジア太平洋大学(別府市)と友好協定を、28日(水)に北翔大学(江別市)と包括連携協定を締結しました。

立命館アジア太平洋大学は、平取町が開催するアイヌ文化に興味のある全国の学生が集まり、様々な視点からアイヌ文化振興に関する提案を行う「大地連携ワークショップ」に、今年も学生が参加しています。

アイヌ文化や伝統が色濃く残る平取町をフィールドに、文化の継承を活かした観光施策や人材育成を学びながら、まちづくりの方法や課題解決策を学生自身が考える場として友好的な交流を進めます。

北翔大学は、地域を育て、地域に支えられる大学を目指す「地域貢献大学」として、様々な産官学連携事業を積極的に展開しています。平取町と連携し、教育活動に関する相互協力や人材育成をはじめ多様な事業を総合的に活用し、交

映画「ゴールデンカムイ」 舞台挨拶上映



映画「ゴールデンカムイ」久保 茂昭 監督

流・連携を進めていきます。今後は、協定に基づき、町は積極的に大学の持つ知的・人的・物的な資源を活用し、戦略的なまちづくりを、また、大学は教育・研究の成果を社会や地域に積極的に提供、還元することで、連携をより実効的に進めていきます。

札幌シネマフロンティアで映画「ゴールデンカムイ」舞台挨拶上映が、1月31日(水)に行われ、平取町から映画撮影に協力した約50名が招待され、映画を鑑賞しました。上映後には、主演の山崎賢人さん、山田杏奈さん、監督の久保茂昭さんが登場し、映画撮影時のエピソードなどを話されました。これに合わせ、町から松田教育長が表敬の挨拶をされました。

シシリムカアイヌ文化祭

第34回アイヌ文化伝承活動発表会



2月18日(日)、日頃の文化伝承活動の成果を発表するシシリムカ文化祭が、中央公民館で開催されました。二風谷アイヌ語教室の子どもたちによる「シノツチャ(歌)」や「オルシペ(お話し)」、成人の部による「カムイユカラ(神話)」「イヨハイオチシ(恋歌)」などの口承文芸、アイヌ文化保存会による古式舞踊が披露されたほか、平取高校とニューオーランド・マオリ民族学校との交流事業の報告がありました。

最後に、アイヌ民族文化財団が主宰し、全道各地から選ばれた伝承者で構成する「パラル」による古式舞踊が披露されました。

北海道分水嶺大縦断 野村良太講演会

平取町山岳会



野村 良太 氏

幌尻岳を主峰にする日高山脈襟裳国定公園が国立公園化されることを記念し、山岳ガイドの野村良太氏を招き、登山の魅力と心がけを町内外から集まった登山愛好家に熱く語られました。

野村氏は、令和4年2月26日から4月29日までの63日間、北海道を北から南に延びる分水嶺と呼ばれる稜線670kmの縦走を単独で達成し、翌年「植村直己冒険賞」を受賞されました。その時に体験された天候判断や装備破損、また、2か月を超える行程へのプレッシャー、空腹との闘いなど、遭遇した厳しい状況を振り返りながら、支えてくれる仲間への感謝と「季節を問わず縦走登山が好き」と、こやかに締めくくりました。

ジャパン・ハウス ロンドン 「アイヌ・ストーリーズ」展

イギリスのロンドン ジャパン・ハウスで開催中の「アイヌ・ストーリーズ」展の関連事業として2月19日(月)～29日(土)の11日間、平取アイヌ文化保存会10名と町職員の計12名を派遣し、保存会による伝承活動や平取町のアイヌ施策を紹介するイベントが行われました。

アイヌ古式舞踊の披露

(2/21・23)

平取アイヌ文化保存会で伝承しているタプカラ(踏舞)、アンナホーレ(鳥の舞)、クリムセ(弓の舞)、ハララキ(ツルの舞)、エムシリムセ(刀の舞)を披露、保存会会長より舞踊の解説や着物やク(弓)、ヘペライ(花矢)なども紹介しました。舞踊の終了後、参加者と保存会のメンバーが自由に話す時間をもち、楽しく有意義な交流を行うことができました。



アイヌ料理イベント

(2/24・25・26)

保存会が行っているアイヌ文化伝統料理の伝承活動の様子を四季に例えて説明し、料理の実演を行いました。丁寧な説明に参加された方々には大変好評でした。保存会のメンバーも一緒にオハウ(汁)を試食し、最後に全員でホリッパ(輪踊り)を行いました。美味しい料理と合わせ、行事の後にホリッパで盛り上げるといふ、アイヌプリ(アイヌ風)を現地の人たちに伝えることができました。



アイヌ施策のトークイベント (2/27)

平取町の概要、文化的景観や伝統的生活空間について紹介し、平取町や国が実施しているアイヌ施策、平取ダム建設に係る環境調査の経緯と調査内容、(株)平取町アイヌ文化振興公社が実践しているアイヌ文化伝承や森づくりの取り組みなどについて説明しました。その後、質疑応答を行いました。参加者は専門的な職種の方が多く、イベント終了後も熱心に質問され、平取町の取り組みに関心を向けていただけたようでした。



二風谷小学校「アイヌ文化に根ざした多文化共生の取り組み」

令和5年度 日高管内教育実践表彰受賞

二風谷小学校は、総合的な学習の時間の一環としてアイヌ文化学習を教育課程に位置付け、地域と一体となって「アイヌ語学習」「ハララキ体験活動」「ハララキ調査活動」に取り組んでいます。その取り組みの成果と課題を論文にまとめ、日本教育公務員弘済会北海道支部が主催する教育研究論文の学校研究部門に応募した結果「特選」を受賞しました。論文は同支部が発行する「研究集録第39号」に掲載されるなど、管内の教育活動の充実に大きく寄与しました。



まちのひろば

北海道の農業・農村の振興発展に永年にわたり貢献され、その功績が顕著な方々を表彰する北海道産業貢献賞に、仲山浩氏(荷菜・びらとり農業協同組合代表理事組合長)が受賞され、2月13日(火)、京王プラザホテル札幌で表彰式が開催されました。

仲山氏におかれましては、高校卒業後、米カリフォルニア州へ農業実習のため渡米し、その後、稲作の減反政策が厳しくなるなか、ビニールハウスでのトマト栽培に取り組み、その先駆者として産地形成に尽力され、たぐいまれな指導力により「びらとりトマト」を全国有数の大産地へと導くなど、地域農業の振興発展に多大な貢献をされました。



北海道産業貢献賞表彰式

令和5年度 北海道産業貢献賞表彰 農業関係功労者として 仲山浩氏(荷菜)が 受賞されました。

◆地域貢献活動ありがとうございます◆

株式会社平村建設(代表取締役 平村徹郎氏)より二風谷コタン内人道橋補修工事、すずらん群生地観賞会会場の軟弱地盤改良工事をしていただきました。



宮坂建設株式会社(代表取締役社長 宮坂寿文氏)より、親水公園内をおがんげ展望台の撤去をしていただきました。

まちの人口と世帯数

		(前月比)
人口	4,521 人	(-5人)
男	2,234 人	(-4人)
女	2,287 人	(-1人)
世帯数	2,413 世帯	(4世帯)

※令和6年2月末現在の住民基本台帳による

楳の実俳句会

遠き日や梅酒を造る母も居て
内海 綾子

満開の梅が埋め尽くす西の寺
遠藤 紫光

着膨れて犬のはしやぎに困るかな
川上八重子

斑雪ふんわり止まる手の平に
熊谷 厚子

白鳥の群れ目を閉じて寄せ合えり
千葉 俊子

バスを待つ風花に包まれながら
長野 新一

餌台にすずめとかけすにらめっこ
道政サツ子

懐の焼き芋温し身も温し
渡辺 正子

教育委員会からのお知らせ

リトルラビットクラブ カーリング教室

平取カーリング協会のご協力をいただき、リトルラビットクラブのカーリング教室を開催しました。

1月20日(土)は貫気別・振内地区の合同開催で、貫気別地区から7名、振内地区から10名、1月27日(土)は本町地区の1～3年生までの児童17名が参加して行いました。

カーリング協会の方からストーンの投げ方やブラシの持ち方などの基礎技術を教わった後、チームに分かれてミニゲームを行いました。氷上での中心を狙ってストーンを投げるのは力加減が難しく、的まで届かなかったり、的を過ぎてしまったりと苦戦していましたが、カーリングの難しさと上手にできた時の楽しさを体験できました。



リトルラビットクラブ 閉講

本町、貫気別、振内の3地区で5月から開講してきた「リトルラビットクラブ」が、2月15日(木)の振内地区を最後に今年度の全日程を終了し、それぞれ閉講式が行われました。今年度は各地区10回の開催となりました。閉講日は、ミニサッカーやシュートチャレンジゲームが行われ、子どもたちには修了証と皆勤賞が手渡されました。(本町地区：修了証27名うち皆勤賞6名、貫気別地区：修了証20名うち皆勤賞4名、振内地区修了証13名うち皆勤賞2名)



ミニ理科教室 ～スピーカーを作ろう～

実験、ものづくりを通じて、科学の世界に興味や関心を持ってもらうことを目的として、2月8日(木)に二風谷、2月22日(木)に貫気別、2月29日(木)に紫雲古津の各放課後子ども教室でミニ理科教室を実施し、51名の参加がありました。今回はコイルと磁石を使った、スピーカーづくりの実験を行いました。

導線をぐるぐると巻いてコイルを作成し、コイルの両端を紙ヤスリでこすり、電気が通るようにしました。次にコイルを紙に貼り付けて、両端をワニ口クリップでミュージックプレイヤーをつないだアンプと接続し、コイルに磁石を近づけて音楽が聞こえるかどうかを実験しました。子どもたちはコイルを作る際に苦戦している場面もありましたが、最終的にはみんなが上手にスピーカーを作ることができ、自分の作ったスピーカーから音楽が聞こえて、とても喜んでいました。

実験を終えて「磁石の量で音量が変わることにびっくりした」、「作るのが楽しかったし、きれいな音が鳴った」などの感想が寄せられ、楽しく学ぶことができました。



握力・ボール投げは全国平均以上！ 走力・持久力は課題！

～令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果から～

今年度、一学期に文部科学省は、児童・生徒の体力・運動能力の状況を的確に把握し、体力向上に向けた取り組みを充実させるため、全国の小学校5年生と中学校2年生の児童生徒を対象に、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」を実施しました。その調査結果が1月に公表されました。

この調査結果を基にした平取町の児童生徒の各種目における概要は、下表のとおりです。

※全国平均を50としての比較：小学校5校5年生（男子21名、女子18名）

中学校2校2年生（男子22名、女子20名）

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
相当高い	+7以上	5男							
高い	+5～+7	5女	5男					5女	
やや高い	+3～+5	2男2女		5男5女			5男2男	5男2女	5男
ほぼ同様上位	+1～+3		5女		5男	2女			
ほぼ同様	-1～+1			5男	5女	5男2男	5女		5女2女
ほぼ同様下位	-3～-1	2男		2男	2女		2女	2男	2男
やや低い	-5～-3		2男		2男				
低い	-7～-5	2女	5女2女	2女					
相当低い	-7以下					5女			

※5：小学校5年生、2：中学校2年生 「ボール投げ」：小5はソフトボール投げ、中2はハンドボール投げ

■総合評価（体力合計点：上位からA・B・C・D・E）

	A	B	C	D	E
小5男	29%	19%	33%	10%	9%
全国	10%	22%	32%	23%	13%
小5女	11%	33%	28%	28%	0%
全国	13%	24%	34%	21%	8%
中2男	5%	20%	30%	25%	20%
全国	9%	24%	34%	24%	9%
中2女	39%	15%	15%	31%	0%
全国	24%	29%	28%	15%	4%

* 小学校5年生男子は、上位層の割合が全国に比べて高い状況にあります。女子も上位層の割合が全国よりも高くなっています。

* 中学校2年生男子はCランクが最も多く、最下位層が高くなっています。女子は上位層が高く、最下位層は0%となっています。

* 種目別に見ると、例年同様にシャトルランや50m走の走力、長座体前屈が全国平均に比べ劣っていますが、握力・ボール投げは全国平均以上の結果となっています。

平取町の小中学校では全学年全種目新体力テストを実施しています。

	A	B	C	D	E
小男	11%	22%	37%	18%	12%
小女	12%	29%	36%	18%	5%
中男	8%	17%	38%	26%	11%
中女	23%	26%	19%	30%	2%

■総合評価

(体力合計点：上位からA・B・C・D・E)

□今年度の総合評価については表のとおりです。(全国調査の対象学年も含めています。)

中女子については、上位層の割合が高い状況にありますが、中男子は下位層の割合が高いことが課題となっています。

□種目別では、全国調査と同様にシャトルランや50m走に課題があり、握力・立ち幅跳びについては全国平均を上回る状況です。

□昨年に引き続き、全国的に児童・生徒の運動時間が減少しています。下記にある体力向上策を学校と家庭・地域が共有し、一人一人の子どもに運動の日常化を意識して取り組ませることが重要です。



貫気別小学校 バルシューレ講習会

平取町としての体力向上策（各学校・関係団体等での主な取り組み例）

- ◆全国体力・運動能力、運動習慣等調査及び新体力テストを活用した検証改善サイクルの確立（小中学校における新体力テストの全学年全種目実施による経年変化：実態把握）
- ◆体育専科教員を活用した指導体制の充実とICT活用による体育の授業改善の推進
- ◆一校一実践の積極的な推進及び運動の日常化への取組の強化
- ◆栄養教諭による定期的な指導及び教育活動全般を通じた食育の推進

図書館へいこう

○開館時間 火～金曜日 9:30 ~ 18:00
土・日曜日 9:30 ~ 17:00

○休館日 月曜日・祝日
※月曜日が祝日の場合は、その翌日も休館



新着図書

★他にもあります
★オンラインで検索できます

【一般書 (小説・エッセイ)】
『方舟を燃やす』/角田光代
『中野のお父さんと五つの謎』/北村薫
『一夜(隠蔽捜査10)』/今野敏
『のち更に咲く』/澤田瞳子
『負けくらべ』/志水辰夫
『そして誰かがいなくなる』/下村敦史
『夜露がたり』/砂原浩太郎
『守護者の傷』/堂場瞬一
『君を守ろうとする猫の話』/夏川草介
『BLANK PAGE(ブランクページ) 空っぽを満たす旅』/内田也哉子
『書くことの不純』/角幡唯介

【一般書 (その他)】
『マンガでわかる!今すぐはじめる!NISA&iDeCo』/酒井富士子
『老いの上機嫌』/樋口恵子
『ウルトラ図解アルコール依存・薬物依存』/樋口進
『ウルトラ図解おとなと子どもの頭痛』/清水俊彦
『今日もさわやかに美しく生きていきましょう』/ちいりお
『うつわの教科書』/竹内万貴
『伝わる言葉。失敗から学んだ言葉たち』/須江航
『さだまさし解体新書』/さだまさし研究会

【児童書】
『ナナのおけいこ』/いとうひろし
『となりのきみのクライシス』/濱野京子
『海のこびとと霧のおばけ』/サリー・ガードナー
『世界が広がる!地図を読もう』/今和泉隆行
『目標を達成するための時間管理が身につく』/すわべしんいち

【絵本】
『おすしがあるひたびにでた』/田中達也
『きみは、ぼうけんか』/ジャルガード・ジャルジェルイ文ガザル・フットレ絵
『せがのびる』/やぎゅうげんいちろう
『花見じゃそうべえ』/たじまゆきひこ
『ぼくはふね』/五味太郎

★★★ 図書ワゴン運行予定 ★★★

■次回 4月4日(木)
【振内地区】 10:00 ~ 12:00 山の駅ほろしり館
【貫気別地区】 14:00 ~ 16:00 貫気別生活館
■貸出期間は次回の巡回日までになります。
■毎月第一木曜日に運行します。
■貫気別支所・振内支所(青少年会館)で返却できます。



図書館カレンダー

4月 は休館日です

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

● 図書館の利用案内 ●

◇ 貸出期間 ◇

	冊数	期間
図書	無制限	2週間
雑誌	5冊	1週間
C D	2枚	1週間
DVD	2枚	1週間

◇ 利用者カードの作成 ◇

何歳からでも作れます。利用者カード申込書に必要事項を記入して、図書館カウンターに提出してください。
住所・生年月日などの確認が必要となりますので、運転免許証・マイナンバーカードなどの身分証明書も合わせてご持参ください。

◇ 図書館の資料検索 ◇

平取町立図書館にある資料はオンラインで検索できます。
【お問合せ】のQRコード、またはURLを検索してみてください。
<https://ilisod006.apsel.jp/biratori-library/>

● オンライン予約ができます ●

「ログインパスワード」は図書館のカウンターで発行しています。

【お問い合わせ】 平取町立図書館

☎電話 01457-4-6666
☎FAX 01457-4-6871
✉メール risu2@guitar.ocn.ne.jp



すこやかだより

保健福祉課からのお知らせ

がんについて
知ろう!!

今年度のすこやかだよりでは「がん」をテーマに、これまで「肺がん」「大腸がん」「胃がん」「乳がん」と4つのがんについてお伝えしてきました。「がん」シリーズは、今月で最後になります

今回のテーマは、

「前立腺がん」&
「がん総まとめ」です。



「前立腺がん」って?

前立腺は、男性のみにある臓器です。膀胱の下に位置し、尿道の周りを取り囲んでいます。この前立腺の細胞が「がん」化して異常増殖する病気が「前立腺がん」です。
男性のがんの中でかかることも多いため、早期に見つけることで根治を目指すのが男性特有の疾患です。

症状について

前立腺がんの自覚症状としては、残尿感や排尿時の痛み、血尿などが挙げられます。しかし、このような自覚症状が現れるのは、かなりがんが進行してからで、初期は自覚症状がほとんどありません。

検診を受けましょう

すこやかだよりでお伝えしていますが、やはり前立腺がんも他のがんと同様に、早期は自覚症状がほとんどなく、定期的ながん検診を受けることが重要です。また、前立腺がんは年齢や人種、男性ホルモンが発症に関与していることが分かっており、努力で防ぐことができるものではありません。

前立腺がんは、50歳代から増え、高齢になるほど多くなります。50歳以上の男性は、定期的に検診を受けましょう。



科学的根拠に基づいたがん予防ガイドライン「日本人のためのがん予防法(5+1)」



どんな検査をするの?

前立腺がんではPSA検査と呼ばれるスクリーニング検査をします。PSAは前立腺で作られるたんぱく質で、前立腺がんがある場合やがんが大きくなるほどPSAの量が多くなります。

PSA検査は、採血で簡単にを行うことができ、平取町では検診費用の助成も行っています。ぜひ、来年度の検診受診をご検討ください。

がんの総まとめ

5つのがんについてお伝えしてきましたが、がん予防のためには共通して正しい生活習慣と定期的な検診受診が大切です。

図のように、日頃の食習慣や運動習慣、喫煙、飲酒等の生活習慣を見直し、「自分の健康は自分で守る」という意識をもちましょう。

また、がんは早期には自覚しないことが多いため、定期的な検診受診による早期発見・早期治療を心がけましょう。

最後に・・・

全5回の「がん」シリーズでしたが、来年度のすこやかだよりでも皆様の健康に役立つ情報を発信していきます。また、ふれあいセンターびらとりの入口に喫煙に関する啓発物を展示しています。ぜひ、ご覧になってください。

【お問い合わせ】

保健福祉課 保健推進係
(ふれあいセンターびらとり)
TEL 4-6112



熱い戦いにキックオフ! 全道PK グランプリ



2月4日(日)「第26回全道PK グランプリ」が好天のもと、全道各地から集まった78チーム、約600名の方々が二風谷ファミリーランドで熱戦を繰り広げました。
雪上で味わう「びらとり和牛&黒豚」も堪能していただき、冬の日をびらとりで大いに盛り上がりました。



選手も一緒に「ハイ、ポーズ!」



優勝 シリエージョ (浦河町)



ふるさと納税ブースも開設



美味しい焼肉でエネルギー充電!!



前日イベント 義経雪あかり 2/3

平取町商工会が主催する「義経雪あかり」が2月3日(土)、ふれあいセンターびらとり、本町から通りを中心にアイスクャンدلや平取小学校児童による行灯で幻想的に彩られ、多くの市民が訪れました。豪華景品が当たるビンゴ大会では、番号が出るたびに歓声が上がり、寒さも吹き飛ばす楽しい夜のひとときでした。

